

報告 8 ヘルシンガー・コムーネ

排除への抵抗としてのインクルージョン

定点観測地のヘルシンガー自治体にいる。

グレステッドにある労働体験センター Center for Job og Oplevelse Nordvest (CFJOO) を再訪する。副施設長で広報担当のクヌードが今度も説明してくれた。

利用者約 250 人。スタッフは 65 人。仕事は、食堂の厨房や掃除、木工、金属工房、テキスタイル、暖房用の薪づくり、花卉にハーブ栽培、そしてテレビやラジオ番組づくりなどじつに多様だ。

施設利用費は、軽度の人々が 1 日 259 クローネ、重度の人は 1 日 699 クローネ。利用者が生まれた自治体がヘルシンガー自治体へ支払う。自己負担はない。

今回の重点は「STU（特別に企画された教育）」という青年たちの教育の実際を見ることだ。

新しい教育制度で、16 歳から 25 歳の青年たちが 3 年間通うことができる。教科書ではなく、課外活動や外国での研修、さまざまな体験活動を通じて生き方や社会を学ぶことが目的だ。

STU は、エグモントのような国民高等学校のなかにもあったし、この就労体験センターの中にも「学校」がある。「学んだことを工房ですぐに試すことができる」のが利点とか。現在 34 人が学び、学生寮も別の場所にある。自閉症者のクラス（8 人）は、設置が 1 か月前。急ごしらえで教室を落ち着く構造に改修した。

ヘルシンガーの障害者の労働の場は、93 年にはじめて訪問した頃には、ホイヴァンゲンにある作業所だけだった。

2003 年に労働体験センターと名前を変え、

2010 年頃にグレステッドに軽度障害者の労働体験センターをつくり、

2011 年からは、旧クロンボーフス（入所施設）跡でデイサービスを運営。



さらに、国民高等学校の食堂や 2 つの国民学校の食堂も運営し、この体験センターで訓練した人たちが、そこで働いているのだそうだ。

「チーム・ビ



ルディングを大切にしている」とクヌードが言った。



「ビンケルダマス通り」にようこそ！

施設長のルイーセと副施設長のメリータ、そして結婚して近所に住むリケさんと利用者のベテラン・アルバートが待っていてくれた。

クロンボーフスといわれた入所施設の跡につくられた「SPUC」について、説明会がはじまった。

ヘルシンガー自治体（社会部）に、「SSI 特別社会施策センター」があり、その下にこの「SPUC」が位置づけられる。①グループホーム（9 つの住宅）／②介護付 24 時間対応の集合住宅（8 戸）／③高齢者対象の住宅（8 戸）／④社会教育的サポートセンター（リケさんなど利用者 90 人）／⑤ L I V（憩いの場）＝ CFJOO のデイサービス。

ヘルシンガーにはその他、2 種類のハウス、サポートのいないグループホーム、24 時間ケア付のグループホームなどがある。

スタッフは 80 人。多くはベタゴー教育を受けた人、専門教育は受けていない介護職員、事務員、音楽や体操、管理栄養士、厨房、清掃、管理職など。人気の職業で 1 名の欠員募集に 90 名が応募するという。仕事の根拠は、社会サービス法 83 条：個人への支援と介護の条項、85 条：社会教育、79 条：余暇活動。



ヘルシンガーにはこの「SSI」と先ほど訪問した「CFJOO」、さらによりケアを必要とするグループホームの「クロンボース」がある。この町は 2007 年の自治体改革でも合併することなく人口 6 万人。

■結婚して 3 年というリケさん

早期年金（障害者年金）を受給して、近所の家で暮らしています。ホームアドバイザーが訪問して、日常生活のサポートをしてもらっています。一日の日課や生活リズムを決めてもらいます。パートナーは「フレックス・ジョブ」をしています。朝の 7 時から午後 1 時までの短い仕事です。

■アルバートさん

週に 1 回くらいアクティビティに参加しています。水泳に参加したり、高齢者クラブで絵を描いたり、ゲームしたり。今 55 歳。ホームアドバイザーと美術館によく行きます。忘れっぽいので銀行に行ったり医者に行くことを後押ししてもらっています。

「年金には満足していますか？」の質問には、リケさん「私の年金と夫の給料でやりくりしてます」アルバートさん「ちょうど家計がやりくりできる金額ですね」

しかし、新しいタイプのグループホームは建築費が高いので、自治体が住宅会社に委託して建設する。利用者は賃貸契約を結んで家賃を支払う。今までは差額を自治体が支払ってくれていた。月 9000 クローネの家賃なら、5000 クローネを自治体が支給しているが、それを出してくれないコムーネが増えてきているそうだ。

デンマークでも、曲がり角の向こうにはバラ色だけが見えるとはならないようだ。

でも、ここは北欧・デンマーク。曲がり角の向こうにはきっと明日がみえる。福祉国家のコンセンサスは揺るぎようがない。



大型台風が迫る雨の東京で障害者・患者 9 条の会の学習交流集会を開催した。講師は千田善さん（国際ジャーナリスト・サッカー元日本代表オシム監督通訳）「明日戦争が始まる？～ユーゴ紛争から学ぶこと～」。



ちょうど 100 年前、サラエボでオーストリア皇太子がセルビアの民族主義運動者に暗殺された。それが軍事同盟により世界戦争になった。

セルビア＝ロシア＝フランス＝イギリス＝（日英同盟の）日本は、セルビアの敵国＝オーストリアの「友達」＝ドイツのチンタオの領土を奪った。「軍事同盟」は今で言う「集団的自衛権」だ。＝不良グループやヤクザの論理＝「オバマ連合傘下の安倍組」だ！と、世界情勢をひもとき、体験されたユーゴ紛争を冷静に分析し、「戦争には準備が必要」で、「テレビ・新聞を掌握するところから権力闘争がはじめられた」と今日の日本の安倍政権の危うさをわかりやすく話してくれた。

千田さんとは 20 歳の頃に出会い、その後それぞれの歩みを重ねながら、数年前に Facebook で再会した。二次会で、彼に自分のモヤモヤと思っていることを話してみた。

さまざまな紛争、移民、民族、宗教（カトリックとイスラム）、ジプシーなど、ヨーロッパは排除（エクスクルージョン）の歴史だらけだ。そこに排除の真逆の考え方として「インクルージョン」を意識的に社会施策として取り入れているのではないか。社会的背景、歴史、文化をまるごととらえないと、「インクルージョン」はよくわからない。薄っぺらなとらえ方になるのではないかと？

北欧の学びの旅のテーマはどんどん沸いてくる。

（藺部英夫）

■SPUCのルイーセ施設長からのメール

Thank you for the good pictures from your visit in Helsingør.

I have printed a couple to Rikke and Albert, who was telling you about their life in Denmark.

Vi are looking forward to see you again...

Kind regards

Louise Manstrup
Forstander SPUC
Center for Særlig Social Indsats

